

出張調査報告書

令和2年11月20日

松伏町議会議長 様

会派名 自民クラブ

代表者氏名 佐藤 永子



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	令和2年10月27日から令和2年10月27日
2 視 察 地	(1) 千葉県夷隅郡睦沢町 道の駅・つどいの郷 (2) 千葉県香取郡神崎町 道の駅・発酵の里こうざき
3 視 察 目 的	(1) 未来を見据えた新しい道の駅の実態 (2) 特色のある道の駅のあり方
4 視 察 者 氏 名	佐藤永子議員 (代表) 高橋昭男議員 増田 等議員 田口義博議員 砂川清時議員
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

## 自民クラブ行政視察行程表

1. 期 日            令和2年10月27日(火)
2. 視察先           千葉県夷隅郡睦沢町 道の駅・つどいの郷  
                       千葉県香取郡神崎町 道の駅・発酵の里こうざき

### 3. 行程 & スケジュール

日 時	内 容	備 考
8:00 8:30 (出発)	レンタカー借用 役場前集合	各自役場集合
8:30～ 10:00	外環道～京葉道経由 車で移動	※途中休憩 移動距離:約110km
10:00～ 12:30	道の駅・つどいの郷	視察研修(昼食含む) 未来を見据えた新しい道の駅の説明(早坂氏) ・オープンまでの経緯 ・オープンまでの経緯人口流失対策 ・地場産業の推進等
12:30～ (出発) 14:30	車で移動	千葉東金道(茂原北)～東関東道(千葉市経由) ～圏央道(神崎) 移動距離:約105km
14:30～ 16:00	道の駅・発酵の里こうざき	特色ある道の駅の在り方の説明(東川氏)
16:00～ (出発) 18:00	帰路 車で移動 役場着・解散	圏央道(神崎)～常磐道(流山)～役場 移動距離:約75km

## 視察結果

### 「道の駅むつざわ つどいの郷」を視察

11月27日(火)に千葉県長生郡睦沢町の「道の駅むつざわ つどいの郷」を所属会派自民クラブのメンバー5人で視察した。睦沢町は九十九里に近く、上総地区屈指の穀倉地帯で、人口6,806人(2020年10月1日推計)、面積は35.59km<sup>2</sup>で松伏町の約2倍ある。道の駅の正式名称は「むつざわスマートタウン・道の駅・つどいの郷」。昨年(令和元年)9月にオープンしている。ちょうど視察と同じ日の27日の読売新聞朝刊に防災拠点としての道の駅の好例として紹介されていた。開所直後の昨年9月、台風15号の被災者に温水シャワーを解放した。また、停電時にも道の駅に備えられていた自家発電ですぐ電気が復旧し、スマートフォンなどの充電サービスも実施、周囲の住宅の電気が復旧するまでの3日間に、約1,000人が施設を利用したことなどが紹介されていた。



道の駅むつざわ



台風15号による停電時(自家発電により電力確保)

この道の駅は温泉施設「つどいの湯」を備えており、地域の住民がつどい憩える、健康をテーマにした道の駅である。防災機能も備え、芝生の防災広場はヘリポートともなり、防災倉庫やかまどベンチが備わっている。レストランはイタリアンの一流のシェフが運営しているとのこと。おしゃれな店舗で新鮮な野菜サラダ付きパスタが定番のようだ。料理に使われるオリーブ油も自家栽培をを目指してオリーブの木が植えられ、オリーブの搾油機も設置されている。ドックランは中・大型犬用と小型犬用が分離設置されている。バーベキューの施設もあって目的型の道の駅を目指しているとのこと。サイクルステーションもある。道の駅の総面積は約2ha。駐車場台数は140台で、平日にもかかわらず、ある程度の賑わいを見せていた。売店には新鮮な地元野菜や草花などが販売され、温泉を楽しむ客が近隣から来られているとのことであった。



むつざわ温泉



地元野菜売り場



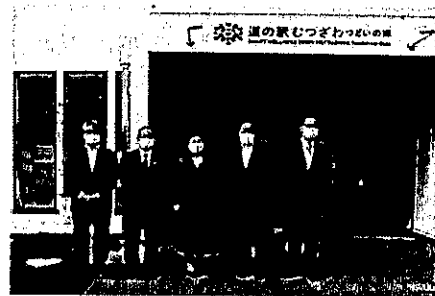
地元草花売り場

道の駅に隣接して地域優良賃貸住宅「むすざわスマートウェルネスタウン住宅」を備えて流入人口の増加を図っている。敷地面積は約8,990㎡、2階建戸建住宅25戸、平屋建戸建住宅3戸、2階建テラスハウス5戸。20年間の賃貸契約で20年間住み続けると建物が所有できるようにして、長期定住化を目指した住宅街となっている。



スマートウェルネスタウン

施設全体の初期投資は約20億3千万円、そのうち国庫補助金が6億7千万円。事業の方式はPFI方式。この方式の利点として、施設の設計・設置と道の駅の運営が一体で計画出来て一貫性が持てることが利点という。各種サービスのコンセプトについて運営実務者の意見をあらかじめ設計に生かし施設が建設されるので、無駄が少なく効率的で使い勝手の良い施設が設置できる利点があるとのこと。



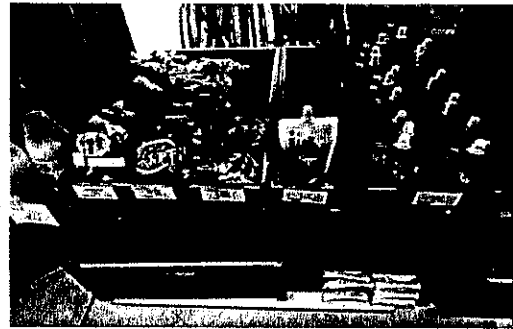
開設1年目でありマスコミ等に取り上げられて好調に始められたが、その後コロナ禍に見舞われ、今のところの経営は厳しいとのことであった。

## 「道の駅 発酵の里こうざき」を視察

「道の駅 むつざわ つどいの郷」に続き、千葉県香取郡神崎町にある「道の駅 発酵の里こうざき」を視察した。圏央道神崎I.C.に近く、利根川に並行する国道356号線沿いの近くにある。神崎町は人口5,715人(2020年10月1日推計値)、面積は19.9Km<sup>2</sup>で松伏町よりやや大きい。江戸時代には利根川の水運で栄え、醸造関連遺産は近代化産業遺産に認定されている。



道の駅 発酵の里こうざき



全国から集められた発酵食品

「道の駅 発酵の里こうざき」は2015年4月にオープンした。日本の発酵文化を世界に伝える施設として高い評価を受け、「重点道の駅」に指定されている。面積は14,200m<sup>2</sup>、総工費は約10億円、開所初年度は売上約4億円で赤字であったが、2年目以降黒字化し昨年度の売上は7億6千万、来場者は約80万人だったとのこと。人口減少の中、町おこしとして地元の300年以上の伝統を持つ2つの酒造会社を核に、酒蔵から町中に「発酵の里」づくり、「発酵の里こうざき酒蔵まつり」が始まった。後日、道の駅構想が始まって「発酵の里づくり」と融合して、地元の日本酒にはじまる発酵食品のみならず、全国の発酵食品を取り揃えた道の駅として営業を始めたとのこと。道の駅に併設されているコンビニエンスストアは24時間オープンで施設のセキュリティーに役立っており、またシャワー設備も備えてトラック運転者の利便性に配慮している。



発酵のまちをアピール



24時間営業のコンビニエンスストア

運営は第3セクターで66%が神崎町の出資、他は商工会、中小企業が出資している。まず「道の駅」ありきではなく、町おこしのため、地元の強みを再発見し、「酒蔵まつり」で盛り上げ、道の駅と融合させたとのことであった。第三セクター方式の欠点として、運営実務者の意見が反映されておらず、使い勝手が悪い点を挙げられていた。まずはじめに施設ありきではなく、売上目標に見合った店舗作りやお客様の動線などの工夫を前もって織り込むべきとの意見は、「道の駅むつざわ つどいの郷」でのPFIの良さの説明とともに大変参考になった。

(文責:増田 等 砂川 清時)

